

平成20年度 技術開発賞

固化処理した含水比と粒度が変化する 底泥土を用いたフィルダム堤体改修技術



(株)フジタ
北島 明



(株)フジタ
福島 伸二



(独)農研機構
農村工学研究所
谷 茂



(株)フジタ
五ノ井 淳



太平洋セメント(株)
酒巻 克之

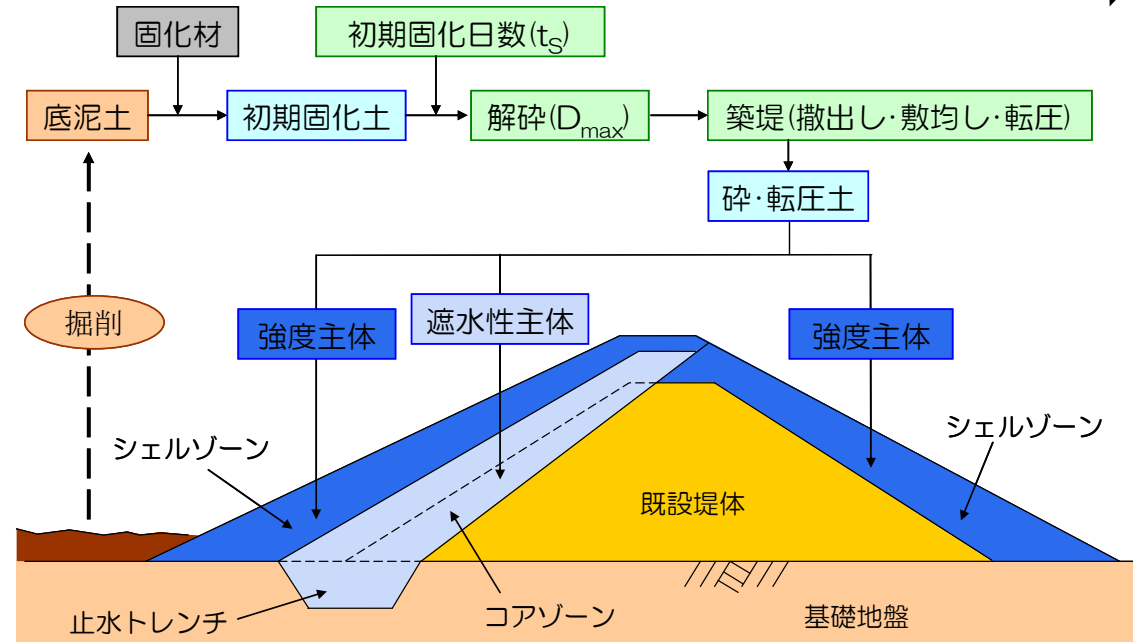
技術開発の目的:

フィルダム湖内に堆積した底泥土の除去処分と
堤体改修を同時に実施し、効率的で経済的な
堤体改修工事を実現する

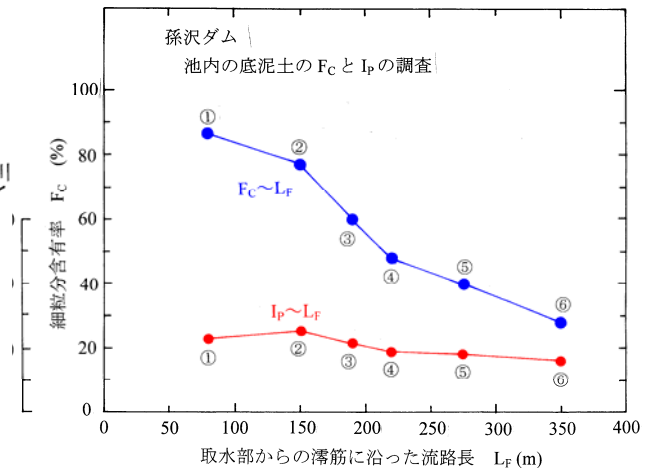
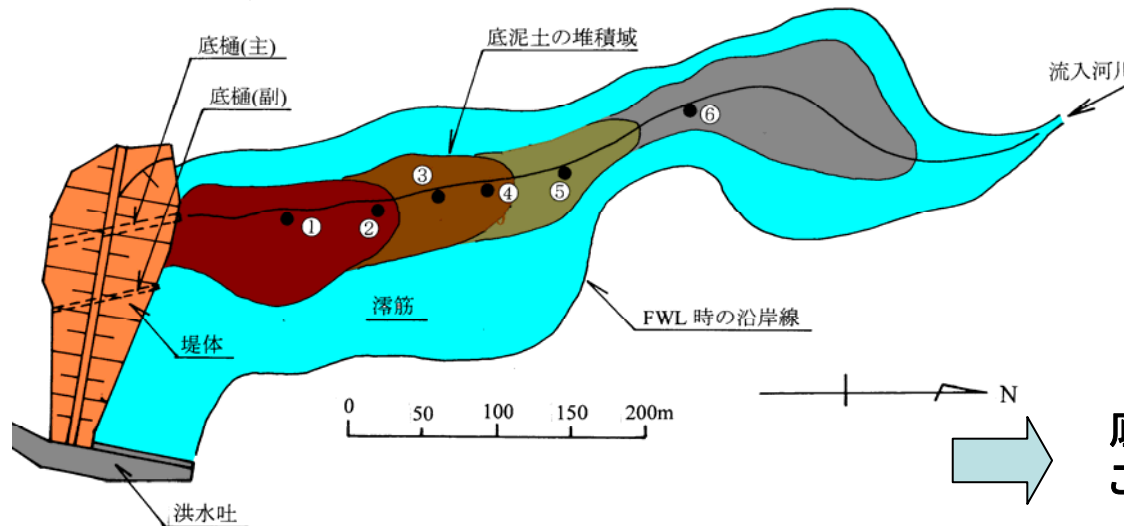
砕・転圧盛土工法の概要

ダム湖内に堆積した底泥土を固化処理して、所要の強度と遮水性を有する築堤土を製造します。

貯水機能を阻害する底泥土の除去と、堤体の改修を同時に実施できます。



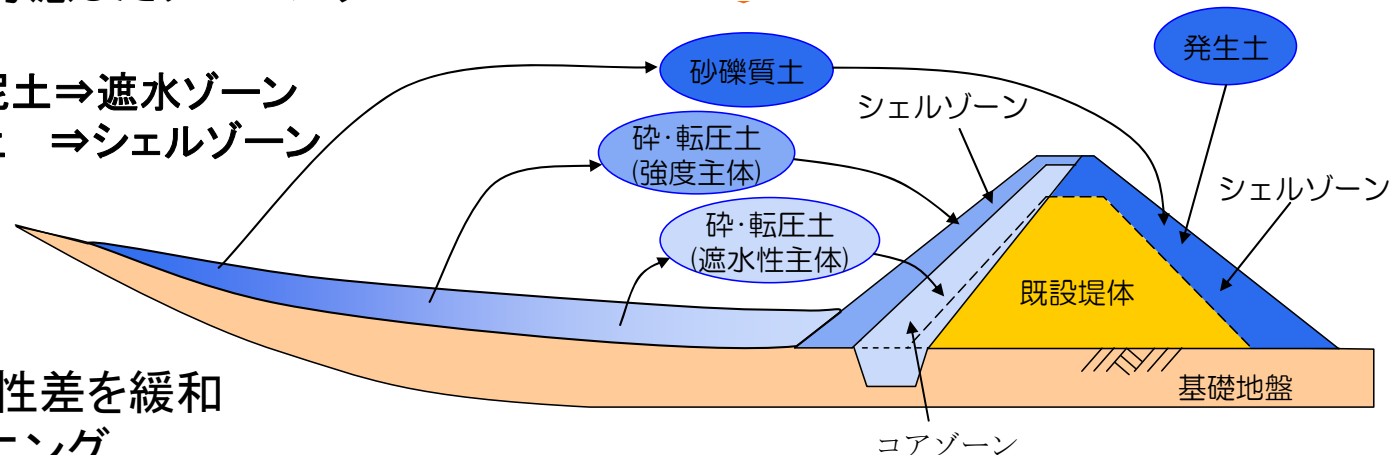
ダム湖内に堆積する底泥土の粒度特性が場所により異なる



底泥土の含水比と粒度を考慮することにより強度と遮水性を制御

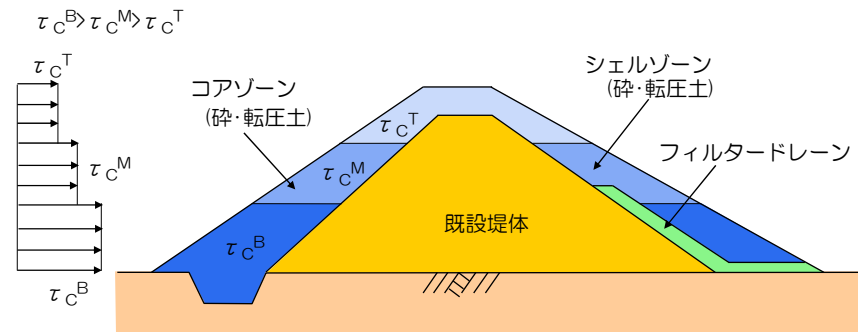
底泥土の粒度を考慮したゾーニング

細粒分主体の底泥土 ⇒ 遮水ゾーン
 砂礫混合底泥土 ⇒ シェルゾーン



既設堤体との剛性差を緩和
 するためのゾーニング

水平ゾーニング
 例: 北谷池



傾斜ゾーニング
 例: 西大谷ダム

